



ロシアNIS経済速報

一般社団法人 ロシアNIS貿易会

2022年(令和4年)1月15日号 No.1880

目次

■ 年初から大揺れとなったカザフスタン —抗議デモ、反体制運動から権力闘争へ—	中馬 瑞貴 1
■ 新型コロナウイルス感染拡大に関するロシアの対応	ROTOBOモスクワ事務所 7
■ 統計速報	12
2021年1～11月の日本の対ロシア・NIS諸国輸出入通関実績	12
2021年1～11月の日ロ貿易	13
■ エトセラ	16
第2回中央アジア・バーチャルEXPO(CAVEX II) /16	
ROTOBO月例報告会「タジキスタンでの地中熱ヒートポンプ事業と現地情勢」/16	
■ トピックス	17
日ロ200海里水域での操業条件を妥結 /17	
JBICがロシアの石油会社に融資 /17	
択捉島にロシア企業が太陽光発電所建設 /17	
羅臼漁協がロシアに刺し網位置を連絡 /17	
ヤマル・ヨーロッパが東向きに逆流 /18	
米ロが戦略的安定対話を開催 /18	
双日がウズベクにガス火力発電施設を建設 /18	
カザフスタンにおける非常事態宣言の一部解除 /19	

年初から大揺れとなったカザフスタン —抗議デモ、反体制運動から権力闘争へ—

ロシアNIS経済研究所 研究員
中馬 瑞貴

はじめに

中央アジア随一の政治的安定を誇ってきたカザフスタンが、新年早々、大揺れに揺れた。事の発端は1月2日に発生した自動車燃料の値上げを理由とした大規模な抗議デモであったが、暴徒化したデモ隊による不満の矛先はカザフスタンの政治体制、特に大統領引退後も政治で実権を握るナザルバエフ初代大統領へと向かった。トカエフ大統領は事態の収束を図るため、5日に首相解任と内閣総辞職、さらにナザルバエフの国家安全保障会議議長解任など迅速な対応を見せたが、その後も混乱が続いた。デモの鎮圧にロシア主導の集団安全保障条約機構が乗り出したり、ナザルバエフ政権期の有力政治家の解任で国内の権力闘争の動きが見えたりと、複雑な様相を呈している。

そこで本稿では、年初から国際的に注目されたカザフスタンの騒乱について、時系列で追いつながら解説することにした。なお、より詳細な分析については、『ロシアNIS調査月報』2022年3月号(2月